図書館報（平成23年6月11日号）に基づく。図書館報掲載分に、多少は読みやすくなるように、手を入れてある。

先日とったアンケートを基に『ワンピース』を通してこれからの日本の文化について吉川校長先生と対談をしました。内容は以下になります：

— 今日はよろしくお願ひします。

『はい、よろしくお願ひします。あれは修学旅行の時でしたよね。たしか、誰かに言ったんだ、ワンピースの話を。あれは二月だから、その時に、僕が56巻まで読んでたとは言ったと思うけれど、実は、目を通してそれっきり忘れちゃってたのね。あのとき、エースがどうのこうの言われて、エースってなんだっ たっけなとは思ったけれど。

ところが、君らから話が来たもんだから、あわてて、勉強するために本屋行って58巻から後を買ってきた んですよ。57巻を読んでないってことに後で気がついたんだけど、表紙に白ひげが書いてあるやつだ、似 てるもんだから全然何が何だかわからなくてね、でもまあいいやと思って、そのまま。

なぜ、ワンピースを見たかと言うと、正月に帰省したとき、かみさんも一緒だったんだけど、かみさんは 日本語教師をやってるんですけども、それで、ひょっとしたら日本のアニメは留学生の日本語教育に役に 立つかもしれないって言うんで、1巻を買って持ってきたのね。実は、あまり役に立たないことがすぐわ かったんだけど、僕の方が嵌って、それで暮のうちに、10巻ほど買って、それをパッと見て、一日か二日 で見ちゃったんで、それから20巻30巻とまとめ買いをして、それでこっち戻ってくる間に50巻くらい目 を通したんですけど、まあ、こんな調子だから、中身となると全然覚えてなくて…。

でもよく勉強してますよね、尾田さんって人は。すごいなって思う。感心してね、でもどうしてこれが人 気あるかってなると、これ、60巻くらいが出たとき、なぜ、若い人の間で、特に、企業で働いている若い 人の間でもって、すごく人気があるかって新聞記事があったね。それでワンピースの存在は知ってたんだ けど、自分で見ることになるとは思わなかった。で、…君らはどう思っているんですか。』

— 何故このタイミングで売れたのかとかですか？

『今ネットで色んなことを見られますよね。ワンピースの翻訳もネット上にあるらしいんだけど、英 語が一番早いんだよね。かみさんから聞いたところによると、タイの学生も、ワンピースをよく知って いるんだって。英訳から重訳してるのかな、それとも日本語を直接見てるのかわかんないんだけど。とにか く、英語版をネットで見たとかなんとか、タイ語版はまだそんなに巻数が進んでないんだとか。しかし2 億冊ですからね、世界で幾らくらい儲かったのかなって、相当でしょうね。

でも話の展開はどうかかわからないですね、色々という風に作ってるんだろう。ドラゴンボールなんかは話をきちんと作ってなかったせいか、話がどんどん長く続いちゃって、大きくなっちゃって、結局、わけがわからなくなっちゃいましたけど。読者フィードバックの連載という形式がいけなかったのかな。

ワンピースは第1巻や2巻から伏線があってね、でも最終的にはどうするんですかね…。昨日ネットを見て、ルフィーが海賊王になるとか、皆が自由になるとか色々書いてあるんだけど…。

ただ、彼はリーダーとしてはどうだろう。人に指示するより自分から動いちゃう事があるよね。何せ漫画だからね、本当の実世界のリーダーと考えるとどうなるんだろう。第一、リーダーに、チームの事を決定する人に、万一何かあったら大変じゃないですか。例えば、飛行機だったら、非常事態では、母親がマスクをしてから同伴の赤ん坊にマスクをするようにって、指導があるわけじゃない。そういう事を考えると、海外の人たちが本当にルフィーみたいなのをどう評価してるのかって気になるよね。

日本の漫画やアニメに興味を持つ人って、その国ではかなりスタンダードから遠いような、もともと日本びいきな感じがしてね、日本のアニメに共鳴するところがあるから観てるのかもしれないけど、本当はどう考えているか、それはわからないと思うんですよね。日本のアニメの主人公の生き方が海外の人たちにとって標準的でないような気がするので、特別に日本びいきではない、つまり、それぞれの国の標準的な見方からの評価ってどうなのかなって思う。

例えば、ドラえもんって海外では非常に評価が悪いって言いますよね、特に、のび太が依存心の塊みたいに見られていて。でも、その評判の悪さがなぜかっていうのはよく理解できますね。実際、僕の印象としても、のび太って奴は大嫌いですね。でも、なぜか、のび太をほめる奴もいるんですよね、あの優しさこそが敗戦後の日本が目指すべき価値の象徴だってね…。何かそんな本を書いた人がいるらしい。

ルフィーは、さっきも言ったように、リーダーとしてはどうかと思う。一匹狼に近くてね。だけど、小さなチームを動かす時にはいいかもしれないけど、大きな組織を動かすには、部下を上手に使えないとうまく行かないんじゃないか、つまり、リーダーの持つアイデアが全体に行き渡らないんじゃないかと思えますね。

そういえば、昔、日本のアニメが世界を席巻してたと言われていた頃に、ある外国人が『現象としての日本アニメは世界中で興味を持たれているかもしれないけれど、文化としては定着しないだろう』と、なぜならアイデアを思想として整理することが行われていなくて、ただ、たれ流すだけになっている。だから、真似されたら踏ん張るところがないから、抵抗できない、韓国とかにね。確かに、新しい国際的な文化として定着させるには、何かしらの、批評というか、思想的な操作がいるんですよ。それがまだ充分じゃな

だと思います。でもマンガ学部とか博物館とかできているから、徐々に定着していくのかもしれないけどね。

要するに、子供向けの水準の物を大人がそのまま手にするからこうなっているわけです、大人が出てきて意味付けされて初めて思想の可能性がね。でも、日本には絵巻みたいに詞書きと場面展開で物語を進めて行くものはあるし、読者にそういう伝統が意識されているのかわからないけど、制作者の方はかなりそれを意識していると思うんです。それで、まあ、少しずつレベルが高くなっているんじゃないかな…。』

— バトル漫画を見るのは戦いに飢えているからでしょうか。

『どうでしょう。でも、大体日本人の戦争観は現代の戦争に対応していないし、まして漫画の戦争観は基本的に日本の戦国時代のものみたいだからね。ガンダムもそうですね、「ミノフスキー粒子」なんて持ちだして無理やり低レベルの格闘を中心に据えていた。でも、鉄腕アトムや鉄人28号も闘ってるし、それに、作者の知性っていうのもありますよね。手塚治虫はインテリだし、それなりのストーリーの上に漫画を作ってたけど、他の人の筋が通ってなかったような気がしますよね。だからストーリー漫画の祖として先生って言われているんじゃないかな。でも「ワンピース」はまだ全体像が見えないからわからないな…。』

— ではこういった漫画というのはむしろ戦国時代の戦いに似た感じだとも

『戦国時代というよりも『シンデバットの冒険』とかね、そういう『千夜一夜物語』とかみたいな感じじゃないかな。ファンタジー、『南総里見』とかもそうじゃないかな…。』

— 『ワンピース』における正義とは何なのでしょう。

『これは海賊ルールっていうか、力の強い者が正義だというルールですね。僕自身はそうは思っていないけど、勝たなくては話にならないわけですよ。正義を主張するなら勝ち残らなくちゃいけない、だから、それがないと、負け犬の遠吠えみたいになっちゃう。』

— 一番好きなキャラは何ですか。

『このワンピースの中での上下関係っていうのは、作者は言ってないけど、無難に「麦わら」と言えばいいんだろうけど、現実感があってアハハとかいうキャラはいないね、のび太やジャイアンみたいな。

キャラも多いし一回しか出てこないのばかり、だから好き嫌いという余裕もないんだよね。そもそもキャラって言うほどキチンと人格が出来上がっているかと聞かれると、疑問がありますね。割とみんな薄っぺ

らな人格しか無いような気がするし…。ハンコックっていうのは非常に綺麗に描かれていると思ったけどね、まあ好きとか嫌いとかより、線がごちゃごちゃしたのが多い中で、これはまあよしよしと思ったわけ。』

— では、最後の質問になりますが、スケスケの実を食べたら何をしますか。

『いいですね…。でも僕らの年になるとあまり興味も無くなるわけで…。

ただ、人に隠れて何かするのは面白くないんだよ。透明人間にしてもそうだけど、見えないところで何かをするっていうのは正常じゃない気がするな。欲の基本っていうのは自分にあるわけでしょう。だけど、透明になるということは、その自分を消すわけじゃないですか。そういう意味で、スケスケとか透明とかは基本的におかしいわけね。だから、スケスケの時間は短いとか、テクとして使うだけかもしれないけれど、それがフェアだとかそうじゃないかとなると、まあ、こんなマンガで言うことじゃないかもしれないですけどね。でも、敵にはしたくないかな。』

— 本日はありがとうございました。